

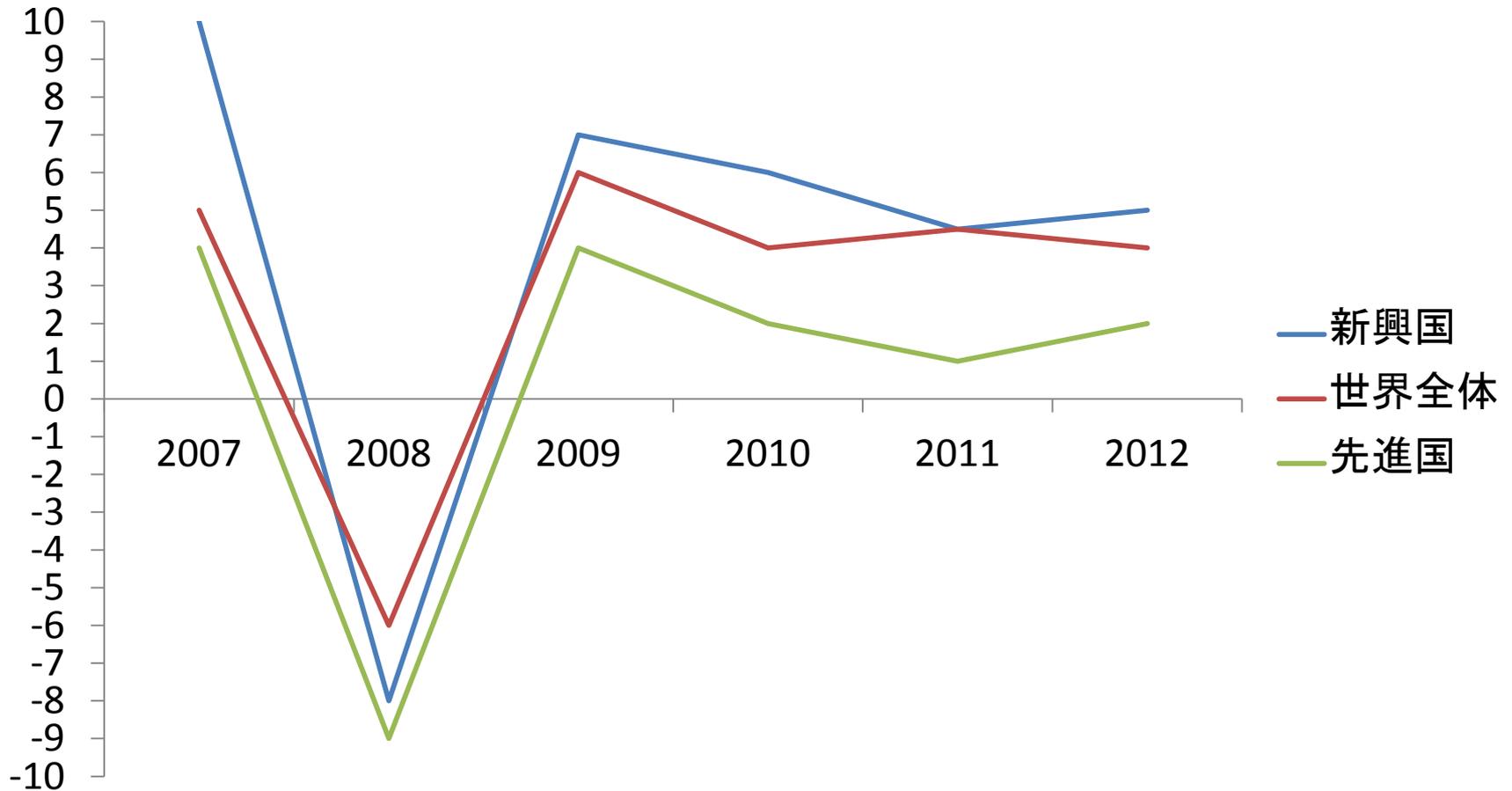
世界経済危機とWTO

横浜国立大学

荒木 一郎

2012年7月31日

世界経済の成長率



出典：IMF WEO Update July 2012

IMFによる最新の見通し(1)

- 2012年については前回同様3.5%としたものの、2013年の見通しは4.1%成長から3.9%に引下げ。先進国全体では、2012年は1.4%、2013年は1.9%、新興国は、2012年は5.6%、2013年は5.9%と予想。
- 米国の成長率は、2012年は2.0%、2013年は2.3%と、それぞれ0.1%下方修正。ユーロ圏では、2012年は、マイナス0.3%、2013年はプラス0.7%。英国は、2012年はプラス0.2%、2013年はプラス1.4%。いずれも下方修正。

IMFによる最新の見通し(2)

- 中国の成長率は、2012年は8.0%（前回8.2%）、2013年は8.5%（前回8.8%）と下方修正。インドについても、2012年の成長率を6.1%（前回6.9%）、2013年は6.5%（前回7.3%）と予想。
- 日本の成長率は、2012年は2.4%と、前回よりも0.4%上方修正されたものの、2013年は1.5%と、0.4%下方修正。

今後の課題

- ユーロ圏の危機対応が最大の優先課題。ユーロ圏全体としての安定化措置のほかに各国の銀行規制や財政政策の統合が必要。
- 日米の財政危機も課題。米国では、来年早々にも連邦債務が法定上限に達することを避けるため、民主・共和両党の合意が必要。
- 新興国では、先進国経済の減速による輸出減少と資本移動の不安定化が問題。

WTOの役割

- G20サミットには、IMF専務理事、世界銀行総裁と並んでWTO事務局長も招待される。
- 「世界貿易機関は、世界的な経済政策の策定が一層統一のとれたものとなるようにするため (with a view to achieving greater coherence in global economic policy-making)、適当な場合には、国際通貨基金並びに国際復興開発銀行及び同銀行の関連機関と協力する。」(WTO協定3条5項)
- 実際、どんな役割を果たしているのか？

WTO設立の経緯(1)

- 1930年代の「近隣窮乏化政策」による世界貿易の縮小を食い止められなかったことへの反省。
- 互恵的通商協定法(1934年)
- 大西洋憲章(1941年)
- ブレトンウッズ会議(1944年)
- 国連貿易雇用会議における国際貿易機関(ITO)設立の動き

WTO設立の経緯(2)

- ITO設立のためのハバナ憲章は採択されるが(1948年)、米国議会の反対で発効せず。
- ハバナ憲章発効までの暫定協定のはずであったGATT(1947年)がその後多角的貿易体制の中心となる。
- ウルグアイラウンド(1986年～1994年)の結果としてWTO設立。
- WTOはITOの生まれ変わりか？

WTO設立の経緯(3)

- たしかにウルグアイラウンドを通じてECは、greater coherenceの必要性を強調
→それゆえWTO協定3条5項の文言
- しかし、WTOの本来の役割は、①漸進的貿易自由化と②無差別原則の徹底を通じて保護主義に対抗することにあつたはず。世界経済のモニタリングが期待されていたわけではない。
- ただし、手がかりは貿易政策検討制度(WTO協定3条4項)。

ドーハラウンドの停滞

- 1996年シンガポール閣僚会合
 - 新分野: 投資、競争政策、政府調達、貿易円滑化
- 1999年シアトル閣僚会合
- 2001年ドーハ閣僚会合(Doha Development Agendaの開始)
- 2003年カンクン閣僚会合
 - 「貿易円滑化」以外の新分野を排除
- 2005年香港閣僚会合
- 2008年「7月パッケージ」の失敗
- 2011年ジュネーブ閣僚会合

貿易政策検討制度 (TPRM) の復権

- TPRMは、WTOにおける透明性強化のための制度とされているが、その起源は1988年12月のモンリオール中間レビュー会合であり、その成果文書に基づいて1989年から実施。
- ドーハラウンドが停滞する中、各国の保護主義に対する早期警戒のための制度として注目されるようになった。
- 通常のTPRMとは別に、事務局が独自に情報収集をして調査結果を公表。

The Economist誌(2012/6/30)より

Protectionism alert

The world should heed warnings that barriers to trade are creeping up

金融危機に見舞われたとき、世界のGDPの85%以上を生産しているG20諸国は、貿易について正しい警鐘を鳴らした。世界各国の指導者は、保護主義が経済的な大災厄をもたらした1930年代の過ちを繰り返さないことを決意したというのだ。そして、この決意が功を奏して世界市場の開放性が保たれているように見られたことは、暗い経済見通しの中で珍しく希望の光を放っているように思われてきた。しかしながら、この楽観主義すらも誤っているかも知れない。今週WTOが発表した報告書が警告するように、貿易障壁は徐々に復活しつつあるのだ。

同記事の続き

新たに導入された貿易制限措置の動向

